

## 令和5年度公開講座 I 報告 (最終報告)

「不登校の子どもの笑顔を引き出すために～コツの伝授と学びの場づくりの実際～」

2024/03/26

◆申込総数:383名 (QRコード申込フォーム:295名、メール・FAX:88名)

田川市在住者:延べ9名 (第1回4名、第2回5名)

田川市在勤者:延べ25名 (第1回16名、第2回9名)

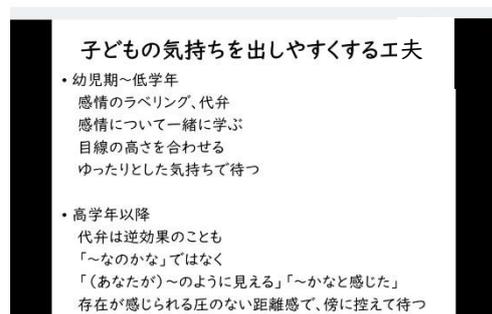
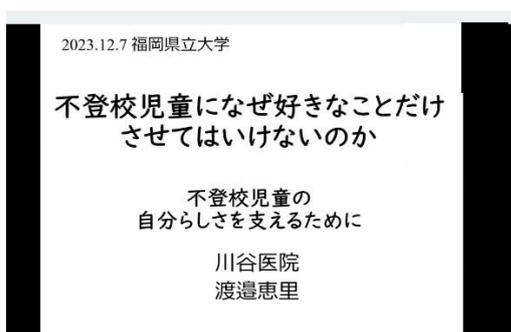
### 【第1回】

❖日時:2023年12月7日(木)10:00～12:00

❖テーマ:「なぜ不登校の子どもの好きなことだけさせてはいけないのか」

❖講師:渡邊恵里先生(川谷医院小児科医) ❖座長:小嶋秀幹先生

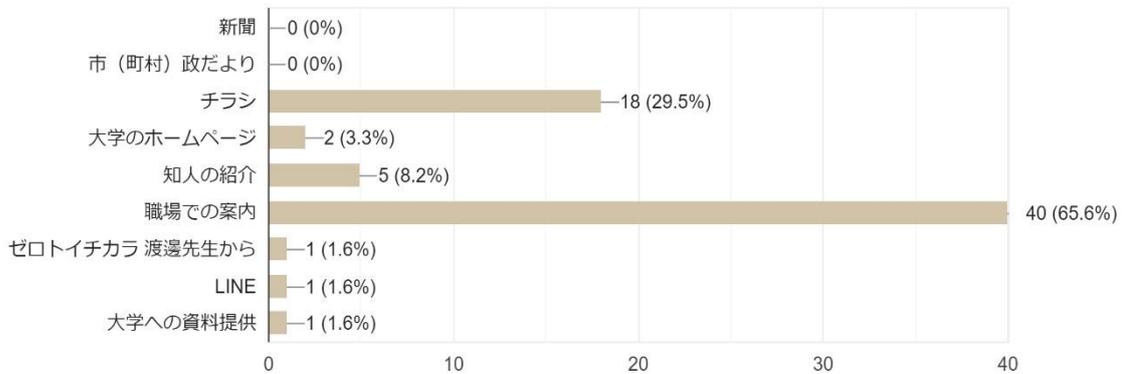
❖参加者・視聴者数(2月29日現在):延べ562名(当日zoom参加95名、後日vimeo視聴延べ467名)



❖ アンケート(2月22日現在):回答61名

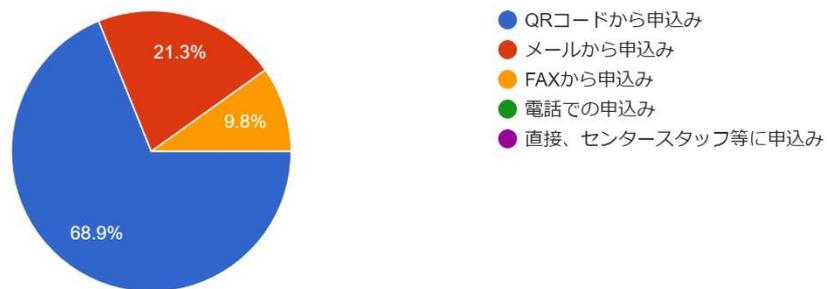
今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

61件の回答



今回の公開講座の申し込み方法を教えてください。

61件の回答

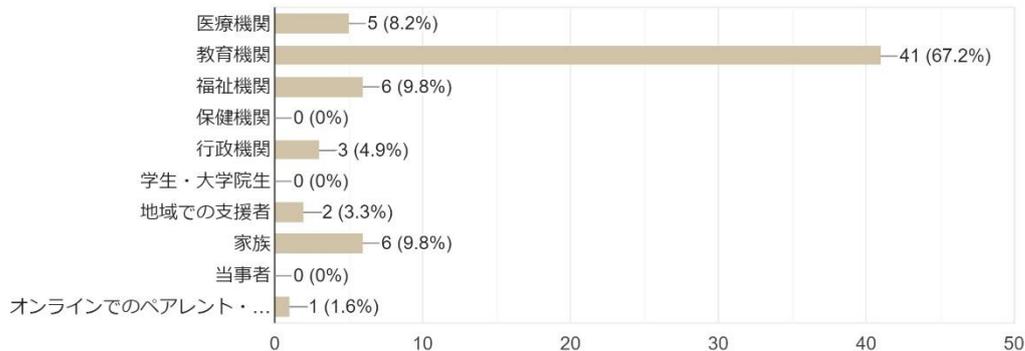


住まい(または勤務)の地域福岡市:19名、北九州市:4名、久留米市:3名、飯塚市:2名、宗像市:2名、八女市:2名、太宰府市:1名、春日市:2名、田川市:1名、筑紫野市:1名、直方市:1名、みやま市:2名、宮若市:1名、福津市:1名、糸島市:2名、大川市:1名、大牟田市:1名、みやこ町:2名、大木町:1名、新宮町:1名、粕屋町:1名、上毛町:1名、筑前町:1名、糟屋郡:1名、佐賀県唐津市:1名、鹿児島県徳之島

町:1名、兵庫県神戸市:1名、大阪府大阪市:1名、埼玉県所沢市:1名、北海道札幌市:2名

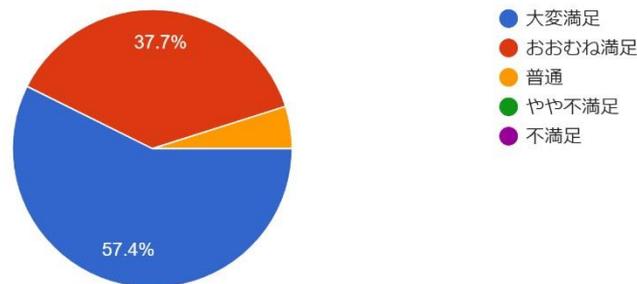
所属機関等について教えてください。

61件の回答



今回の受講講座（第1回）についての印象はどうでしたか？

61件の回答



◇今回（第1回）を受講され、講師等へご質問がありましたらお聞かせください。

・今日お話された能動的は一般的な能動的、主体的より一段階上の状態だと感じました。子供にしたら何かと親や学校、社会や制度のせいにしたくなる状況だろうと思いますが、それでも能動的にできるものか、親も能動的になる必要がありますね。

・ケースIにありましたようにお母さんが受動的すぎて、子育ての成長に良くない影響を与えている場合、アプローチの仕方アドバイスがあれば教えてください。

・能動性を増やすについて、もっと具体的にお聞きしたかったです。私がイメージしにくいところがあります。著書も拝読いたします。

・自分は学校職員ですが、なかなか理解が得られない保護者へのアプローチ等について教えていただきたいです。本日の話を聞いて、やはりその子の育ちなどを聞きながら、支援について共有したいと思いますが、学校関係者には保護者の方も過去のその子の育ちなどはなかなか話していただけない

こともあり、どのようなアプローチが有効なのかを知りたいです。(もちろん保護者との関係を気づくことが第一だとわかっていますが)

・特にありません。(2件)

・タイトルのなぜ不登校児童に好きなことだけさせてはいけないのかに対する答えがわからなかったです。

・自分の気持ちに目を向けることが苦手な生徒(中学2年生男子)に対して、養護教諭がどんな声かけをすれば、気づくことができるでしょうか?保健室には週に1回登校し少しだけ話をしている状態です。

・今回は、小学校や中学校の事例が多々ありましたが、高校生の事例なども拝聴したかったです。小・中学校とは違い、単位の問題、親子間の方向性の差など、さらに顕著になる中で、どのような不登校支援をしていったらよいのか、考えたいと思っています。

・子どもを受動的にさせる大人(教員)の自己中心的な態度に課題があると感じていますが、そこへのアプローチを以下にするべきか難しいのですが…

・不登校のお子さんの支援には学校の先生との協力が不可欠だと感じています。一方で、福祉機関や家族という立場だと、学校に協力を仰ぐことの難しさがあるということも感じています。例えばこれまで、玄関まで行くという約束だったのに教室まで入るよう促される、学校の環境調整に応じてもらえない、相談したいのに「学校に来ないなら支援のしようがない」と言われるなどのケースがありました。関係機関の一つとして、もしくは保護者として、学校と良好に支援を進めていくコツを知りたいです。

・本校の1年生で10月ぐらいから不登校になった児童がいます。子どもは、担任の先生が怖いと言っています。他校にも担任とあわなくて学校に来れない児童がいます。こういうケースは、家庭も理由であることも考えられますか。また、管理職ふくめて担任と子どもをつなぐとき、どんふうな言葉かけて担任が子どもと上手くいくでしょうか。私は養護教諭をしています。

・ゲーム・スマホ依存等の高校生を見てくれる北九州市周辺の病院又は先生がおられたら、教えていただきたいです。

#### ◇第1回目を終えての意見・感想

・保護者と生徒の関係を改めて確認できました。家庭環境が重要であると再認識しました。

・とても良い学びになりました。著書も読ませていただきありがとうございます。この機会を作ってくくださった方々、ありがとうございます。

- ・スピノザについて調べてみたいと思いました。
- ・大変勉強になりました。また、機会があれば話し伺いたく存じます。ありがとうございました。
- ・どの様に子供と接していくのが良いのか手探りでしたが、心構えができたように感じます。
- ・とても良いお話を伺えたと思います。能動的・受動的という観点が分かりやすく素晴らしかったと思います。
- ・先生のお話やスライドもわかりやすく、腑に落ちることがたくさんありました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・色々な講演を聞いてきましたが、とてもわかりやすく参考になりました。ありがとうございました。とても良かったです。オンデマンドで申し込んでいたので、短時間での参加でした。申し訳ありません。オンデマンドで、しっかり視聴させていただきます。
- ・オンラインで研修を受けられて良いお話が聞けて良かったです。事前の質問にもお答えいただきありがとうございました。不登校の子の支援をまた改めて考えていこうと思います。
- ・希望者が多い中でのメール等でのご対応、感謝いたします。ありがとうございました。
- ・自身も我が子の不登校を経験をし、不登校の支援に携わっていますが、やってきたことへの答え合わせになりました。新しい気づきは今後の実践につなげていきたいと思います。スピノザの著書もとても興味深く、あっという間の2時間でした。アーカイブでもまた復習させていただきます。好きなことをさせ続けていいのか、今一番悩んでいたことでした。ありがとうございました。
- ・専門的な立場からの話が聞けたので今後心強く感じた。
- ・素晴らしい講演をありがとうございました。また、お話うかがいたいです。このような機会・出会いをいただき、心から感謝しております。
- ・今後の支援の軸となるようなお話でした。
- ・アドラー心理学を学んでいますが、スピノザも学んでみようと思います。ぜひ、またご講演お願いします。
- ・本日はご多用な中、ありがとうございました。企画いただいた福岡県立大学の皆さま、本当にありがとうございました。
- ・「受動的から能動的」という内容が印象的でした。また、「能動的な子育て」について、一つ一つ丁寧に話しいただき、学校職員としてまた一人の母親として参考になりました。ぜひ、今後に生かしていきたいと思ひまして。また、先生のお話をお聞きしたいと思ひました。ありがとうございました。

受動・能動という、わかりやすい解釈でのご講話をいただき大変勉強になりました。本校の生徒も、中学生になって登校しぶりや不登校になる背景のひとつとして、幼児期から受動の立場に立たされすぎていることもあるのでは、と新しい視点での発見がありました。能動性を増やすアプローチは、意識するだけでいつからでも始められることだと思ったので、支援をする際の参考にさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

・受動的能動的の視点で子供や保護者を見るとわかることがあるなと思いました。高校は欠課時数などで留年が決まるのでつい判断を急がせたりしますので気をつけたいと思いました。

とても興味深い内容でした。能動性を引き出す子育てや理性を育てるという話は、すべての保護者にとって参考になると思いました。ありがとうございました。

・大変有意義な講座でした。ありがとうございました。次回も楽しみにしています

・受動と能動に視点を置いて考えると、とてもわかりやすく、今不登校になっている、傾向のある児童生徒の様子も頭の中にどんどん浮かんできました。学校という圧力の中にあるような環境で、自分の気持ちに気づけない児童生徒もまだ居るのだろうなと思いました。保健室で自分の気持ちはどんな気持ちなのか、子どもたちに考えさせるような問いかけや共感をしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

・たいへん楽しく学習することができました。・渡邊先生、講演ありがとうございました。はからずも自分の勉強不足が明らかになりました。今は1回目の研修動画を繰り返し見ているところです。今後も自分の力になるよう、研鑽を重ねていきます。

・能動性を引き出す子育てや教育的支援の機会を増やす

・講師の説明がわかりやすかった。

・具体的なお話が聞けて、関わっている子どもをイメージできて、実践的な内容だった。

・とにかく色々考えさせられました。不登校を生む要因となる大人の言動を変容させるのは難しいですが、できることから着手したいと思います。

・非常に興味深いお話でした。能動を引き出すためにどうかかわるかというスタンスは、子どもと向き合う時のヒントになりそうです。一方で、私自身が受動が強いからか「そうは言っても実際は難しいよな…」という気持ちもありますが、きっと気づけたことがスタートになると感じています。ありがとうございました。

・非常に勉強になりました。能動的は大切ですね。

・学校へ行くか行かないかを、本人に考えさせることについて。心が弱っている状態では判断しようがないとして、笑顔で遊べる状態にあっても、対話によって理性を育む手段であるとしても、本人が結果に責任を取れない選択を委ねるのは、不適切ではないかという思いが拭えません。

・先生の講話を伺って、わたしは能動-受動というよりは、自律-他律という視点で捉えていると気付きました。他律的に与えられていた躰や状況に何らかの意義を見出して自律するか、他律的な躰や状況から一度離れて理性を育てて自律するか、の2通りの方法があるように思います。能動という言葉には、自律よりアクティブでポジティブなイメージがある点が良いと思います。"

・講演された内容はある程度理解できましたが、実践は難しそうだなあと感じました。

・being⇒playing⇒この先に”学ぶ=(学校)”があるという先生の言われたフレーズが腑に落ちた気がしました。生徒に、自分と向き合う体験を増やしていくことを意識して、一緒に学校生活を送っていきたいと思いました。

・初めての講義の参加でしたが順を追って事例をあげながらの説明でとても分かりやすかったです。話を聞きながら子供に対しての対応で心当たりがある部分もあり今後もこの講義を子育てに役立てようと思いました。

・小学校教諭で特別支援学級を担任しており、現在、不登校の児童を担任していますので、お話であったように、その子が能動的に動き出せるような支援をしていきたいと思いました。本人のペースを尊重しながらも、登校刺激の量を調節するなど、バランス感覚を大切にしながら支援していこうと思います。

・保護者や先生の関わり方が子どもに影響すると感じました。私は心配性で、してあげないと、という気持ちになってしまいがちなので、子ども自身に悩ませることを意識しなければいけないと思いました。子どもが自分で考え、悩んでいることをサポートし、寄り添いたいです。ありがとうございました。

・大変有意義な時間となりました。校内適応指導教室には様々な生徒がいます。叱られ体験が多い生徒、受動になっている生徒はまさしくそうだなと感じました。受動の立場を能動に変えるのは難しいこともありますが、その子に応じたアプローチをしたいと思いました。ありがとうございました。・大変、参考になりました。今後の対応に生かしていきたいと思います。

・不登校生徒の能動性を引き出すアプローチをということ、とても納得いくものでした。普段の学校生活の中で、能動性を意識して子どもたちと関わっていこうと思います。とても参考になりました。

・今回「不登校児童になぜ好きなことだけさせてはいけないのか」というテーマに興味を持ち参加させていただきました。講話内容で、受動的ではなく能動的に考える、行動できるようにすることが大事であることを特に感じました。講義中、普段接している児のことを想像しながら受講していたのですが、あ、受動的になっているなど振り返ることができました。また、セルフエスティームを高めるために褒めることを意識して接していたのですが、褒めるだけでなく、賞賛や感謝の声かけをする、結果ではなくて過程に着目することの大切さを学びました。本日の講義で得たことは、自分が意識することですぐに変えられるので、すぐに実践していき、児が少しでも能動的に動く機会が増え、教室復帰ややりたいことに向かって進めるように支援していきたいと思います。

・貴重なお話をきかせていただき、本当にありがとうございました。"

・保護者にこの動画を視聴してほしいと思いました。でも関心がなく、連絡もなかなかできない状況です。

・医師をしています。感想ですが、不登校の子への関わり方は、医師の場合は安心感や安全の確保に比重があり、関係者や親御さんは今後の自立などへの意識に比重があったように思います。ただ、先生のお話にもあったように、医師の間でも、子どもの主体性、自立を育てる方向に変化してきているように感じています。とても参考になるお話をいただきありがとうございました。

・大変分かりやすくお話いただき勉強になりました。先生の著書も拝読させていただきたいと思いました。

・このような機会をくださりありがとうございました。

・もしよろしければ今回の資料を頂けないでしょうか。メールで頂いたところから閲覧できませんでしたので、お手数をおかけしますがよろしくお願い致します。"

・小さな頃から能動であることが、自分らしくのびのびと生きられる秘訣に感じました。育てる中で、その子らしさや自己決定、失敗の経験等をさせながらサポートしていく姿勢が大切なのだと感じました。

・不登校の子どもに、キャップを使って意思表示させる工夫は今後、教室で使えると思います。一つヒントを得ました。ありがとうございました。"

・質問されている方もおっしゃっていましたが、自分の取り組みについて改めて振り返ることができたり、自分の考えが自分の中でしっかりと言語化できたように感じております。

・能動と受動の考え方が大変印象に残りました。保護者は、わが子への愛情から、自身の子育てによって子どもが受動の立場に立たされていない、子育てとして取り組んでいることは必要であると信じ込んでいる方が多い気がします。一生懸命されてるが故に、行き詰まり、外に支援を求めている方が

多いように感じます。保護者の方も、価値基準が自分の内面から生まれたのではなく、外に軸を置いて、受動の立場に立たされているのかなあと思いました。子どもの支援において、子ども自身と、子どもを支える保護者が今どのような状態なのか、見極めて、接していきたいと思いました。本当にいいお話だったので、何度も拝見しました。見逃し配信、ありがたかったです。ありがとうございました。

- ・とても勉強になりました。ご著書も買って読んでみようと思います。

#### ◇次回(第2回)SSW(スクールソーシャルワーカー)幸重忠孝先生への事前質問

(第2回目に回答いただきました)

- ・まずは、SSWというお仕事、学校と連携してどういった内容していただけるのか、漠然としているので、具体的に知りたいです。どういった内容をSSWに繋げるのか悩む場合があります。
- ・SSWの支援(社会的な支援)が必要であると考えられる家庭があるが、保護者がSSWの介入を拒否した場合、学校としてまたは学校のSSWはどんな動きができるのか、必要なかを教えてほしいです。
- ・SSWの役割がSCとは異なることはわかるのですが、重複している点もあるかと思えます。学校で、支援をしていただく際に、SC、SSWの先生方にどのような案件をそれぞれお願いしたらよいのか、教えていただければ幸いです。
- ・母親・継父と折り合いが悪く、最近祖母宅で暮らしている生徒で、精神科受診(眠れないため)をしたいけれど、母親とは顔を合わせたくなくて(恐怖を感じる)一緒に行くのは本人が拒否。祖母は連れていってくれない場合、母親からは病院受診の承諾をとる予定ですが、どのようにしていけばいいのでしょうか?(学校でカウンセリングは受けています)具体的なアドバイスをよろしくお願いします。高校生の精神科受診は保護者同伴がほとんどなので・・・困っています。

#### ◇今後(3月開催)の「不登校支援フォーラム」や次年度の「公開講座」に向けての要望

- ・訪問看護の活用方法等教えていただけたら助かります。
- ・発達障害に特化した内容のものがあるとありがたいです。よろしくお願いいたします。
- ・渡邊先生の話をもた聞きたいです。
- ・同じようなテーマでまたお願いいたします。
- ・校内でできる支援体制、環境づくりなど
- ・今回の講師に続きをお聞きしたいです。

・学校と、SCやSSWの専門職、医療機関や行政機関を含めた関係機関でのチームアプローチの重要性やその方法について学びを深めたいです。(現場で仕事していると、チームアプローチがなかなかうまく活用されておらず、学校も専門職も負担を感じ、離職するケースが年々増え、結果的に児童生徒に対する継続した支援に結び付いていないと感じるため)

・高校生を対象とした不登校支援を学びたいです。また、教職兼心理士(私は公認心理師の資格を取得したのですが)の方もいらっしゃると思うので、どのように学び、また学んだ力を学校で発揮していけばよいのかを教えていただきたいです。

## 【第2回】

❖日時:2024年1月30日(火)10:00~12:00

❖テーマ:「こどもソーシャルワークセンターのほっとるーむ物語」

❖講師:幸重忠孝先生(こどもソーシャルワークセンター長/滋賀県SSW) ❖座長:奥村賢一先生 ❖

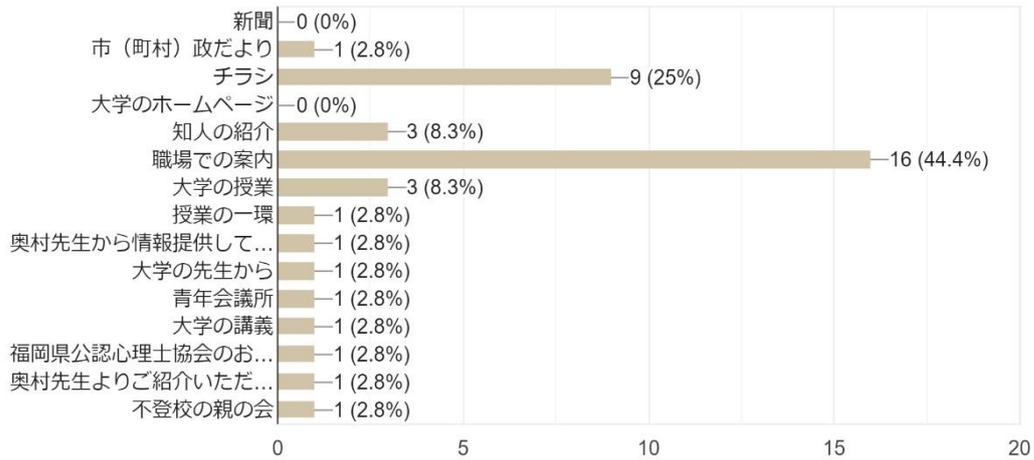
参加者・視聴者数(2月29日現在):延べ204名(当日現地参加38名、zoom参加39名、後日vimeo視聴延べ127名)



❖ アンケート(2月22日現在):回答36名

今回の公開講座を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

36件の回答



今回の公開講座の申し込み方法を教えてください。

36件の回答

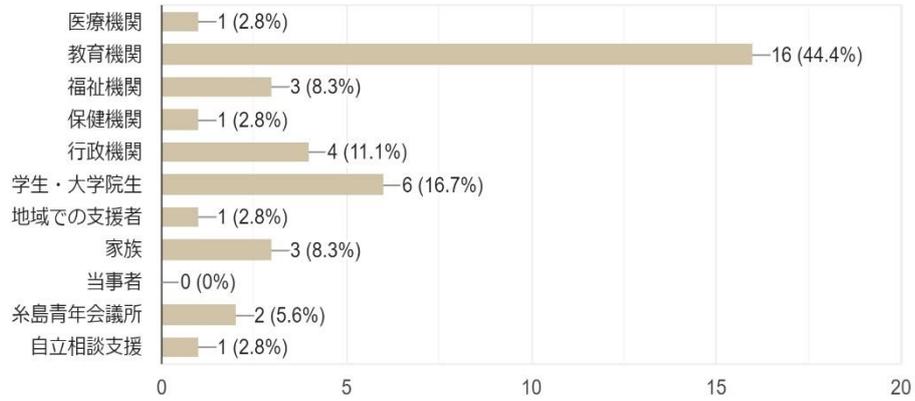


住まい(または勤務)の地域(回答36名)

福岡市:6名、田川市:3名、糸島市:4名、直方市:2名、行橋市:2名、飯塚市:1名、北九州市:1名、宗像市:1名、筑後市:1名、八女市:1名、中間市:1名、大牟田市:1名、春日市:1名、佐賀県唐津市:1名、篠栗町:1名、新宮町:2名、桂川町:1名、みやこ町:1名、田川郡:4名、京都郡:1名

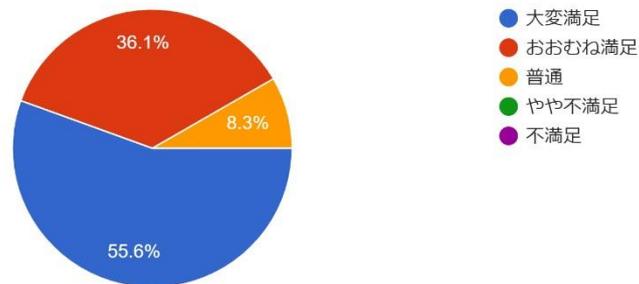
所属機関等について教えてください。

36件の回答



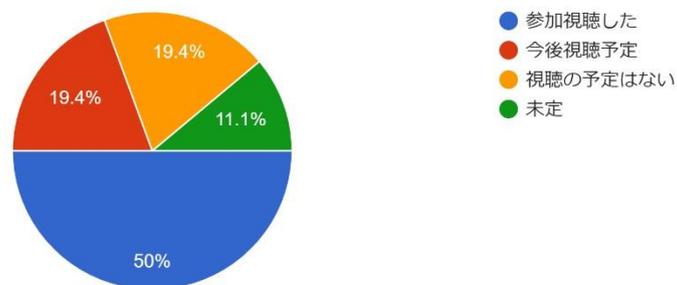
今回の受講講座（第2回）についての印象はどうでしたか？

36件の回答



第1回目（当日・後日限定配信）に参加されましたか。

36件の回答



## 第2回を受講されての講師への質問(9件の回答)

・幸重先生が、何でそこまで子どもたちの支援をされるようになったのか、そして、今何を新たに学びたいと考えられているのか聞きたいです。

・ありがとうございました。

・色んなお話が聞けてためになりました。

・こどもソーシャルワークセンターでは、進路支援や就職支援などはされていますか。もしくは、どこどのように連携をされていますか。

・映像や物語になっていることでより具体的に想像することができました。いろいろな家庭環境の中できつと感じている子どもたちが安心して過ごすことのできる場所があるというのはとても素敵だと思います。いろんな機関と連携をとりたいと思いました。また、最後の方にありましたが、ラベルをはらないこともキーワードだと感じました。介入する上でその部分もこれから意識していきたいと思います。

・子どもたちの居場所づくりの大切さが大変よくわかりました。要対協対象者のみしか国からの援助がないことを知り、草の根の地域に根差した活動を継続していくために、講演活動を続けていらっしゃる幸重先生の活動に感銘を受けました。税金は、社会的な不利益を背負わされている子にこそ使ってほしいと思いました。国会で今日の講演してほしいくらいです。本日は貴重なお話ありがとうございました。私も SSW との連携を密にしながら、子どもたちのつぶやきを大切に、心の声に耳を傾けられる SC になれるよう頑張っていきたいと思います。

・家庭や学校にしんどさを感じているこどもには、別の世界(地域)に居場所をつくってあげることが必要であると解釈しました。糸島青年会議所でも糸島塾という期間限定の事業を毎年夏に開催しています(今年は無人島で自給自足の生活を行う予定です)。そういった事業に参加してもらうことも、しんどさを感じているこどもにとってはプラスの効果があるものではないでしょうか。

・子どもの声や思いが聴けるアイデアがたくさんあり、あたたかい気持ちになりました。今後の展望等があれば、教えていただきたいです。

・普段、子ども達と出会うきっかけがあっても、日常会話からスムーズに話していくにはどうしたらいいのか分かりません。

・現場での生の声を聴かせて頂き、とても今後の参考になりました。第2回目を終えての意見・感想(18件の回答)

・ありがとうございました

- ・学校でもない、フリースクールでもない、子ども食堂でもない子どもの居場所は必要だなあと痛感しています。それも各中学校区に必要だと感じています。
  - ・無ければつくる。それを実現させるにはまだまだ経験や知識が足りない。でもそういう人を巻き込んで作りたい…でもそろそろ年齢が…などなどありますが…そういう思いだけはあります。
  - ・万が一の時は色々教えてください。
  - ・子どもに限らず本音を引き出す事本当の気持ちを聞くことが難しい場面があるため、ひろいあげることができそうな関係づくりを心掛けたいと思いました。
  - ・SSWの方と連携しながら仕事をさせていただいております。子供や家族にとって最良なことは何か日々考え、できることを行っているつもりです。先生からアセスメントを怖いと思えることの大切さを伺い、改めて謙虚に振り返りを忘れることなく支援の方法を考えなければならないと感じました。
- 講師の先生、大学の先生方このような機会をいただき大変ありがとうございました。
- ・音声や画像が届きにくいことがあり残念でした。保護者に拒否されにくい言い方参考になりました。
  - ・リーフレットなどで直接的にヤングケアラーとか虐待、不登校、発達障がいなど、と書かれていたら引きますよね。
  - ・先生の「子どものそのままを受け止める」という言葉が印象的でした。私たち教員は子どもたちをいろいろな枠に当てはめて考えがちですが、一人一人の声を聞いて、そのままを受け止めていきたいです。ありがとうございました。
  - ・裏側の話なども聞くことができ、大変勉強になりました。
  - ・こどもソーシャルワークセンターについては初めて知りました。また、フリースクールとの連携も十分にとれているわけではありません。しかし、こどもにとって居場所の選択肢が増えることはとてもいいと思います。本来であれば、家庭が一番落ち着く場所であってほしいですが、そうはいかないケースも多いので。夜に家に一人でいると不安になり外出するなど、心配な生徒もいますので、こういった施設が増え、また問題なく運営できるような制度を導入してほしいと思いました。
  - ・幸重さんがおっしゃっていたラベルを付けない居場所がとても必要だと思いました。ラベルを付けないと安心できないのは大人の頑なさかもしれませんね。とても良いお話を聞けました。本当にありがとうございました。
  - ・映像が途中乱れたり、音が聞こえづらかったりはありましたが、対面だと参加できなかったためオンラインで受けることができてよかったです。
  - ・ありがとうございました。

・始めの部分の音声聞こえづらかったり、画像が途切れたりが残念でしたが、すぐに対応していただき大変助かりました。以前から県大の講座には対面での参加をさせていただいていましたが、今回は初めて ZOOM での参加をさせていただき、時間を有効活用することができました。次回も ZOOM での参加ができればありがたいです。

・貴重なご講演ありがとうございました。地域の重要性を感じました。青年会議所としても糸島塾という枠を上手く活用できないかと考えております。

・様々な児童生徒に対する多様な考え方、接し方が大変参考になりました。ありがとうございました。本日は、講座をありがとうございました。

・居場所の活動では、子どもの好きなことをして良い時間、お昼や夜の時間帯を選べたり、個別や少人数のかかわりや、子どもの人数よりボランティアの方の人数を増やしていること、送迎時等の子どもとの会話を大事にしていることなど、子どもの声や思いを聴けるアイデアがたくさんあり、とても勉強になりました。私も、子どもの声や思いを大事にできる居場所で、子どもたちとの時間を楽しみたいと思いました。

・講師の先生と直接お話しが出来た。

・頑張らなくていい、家族から縛られず、自分でいられる場所。「毎日来たい」と思うくらい環境が保護されてない状況がよく分かりました。

・現在 10 歳の次男が学校に行っていません。学校、家の居場所がなかった、ひとりぼっちだったと本人から言われました。この言葉をきっかけに私自身の子育て、人生観を振り返り、この子が安心して生きていくには、ということを日々思っています。孤独を感じていたこともただ楽しく過ごすこと、それが一番大切なんだとお話を聞いて改めて感じました。何気ない会話、安心な雰囲気から、ポロツとこぼれる言葉が大切と言われていました。我が子もこのようなことが度々あります。その度に、泣いたり、話してくれて、ありがとうと言葉をかけています。なかなか先が見えませんが、この子はきっと大丈夫だと信じて、楽しく過ごそうと思っています。

・2 回とも、生きづらさをかかえた若者と直に接している講師からの話して、大変有意義な学びになりました。

今後の「不登校支援フォーラム」や次年度の「公開講座」に向けての要望(8件の回答)

- ・また、学びたいです!
- ・発達課題、愛着課題、ヤングケアラーに関する講座をお願いします
- ・大変お世話になりました。Zoomなので出張せず参加できるところが魅力です。
- ・また機会を作っていただけたらと思いました。ありがとうございました。
- ・元不登校だった子どもが大人になって思ったことを聞いてみたい。確か明確な調査があまりされていないような気が。大人になって振り返って不登校で良かったこと、良くなかったと思うこととか知りたい。
- ・保護者の支援をしている団体などがあれば聞きたいです。
- ・過去に不登校だった方(今は成人してる)のお話を聞いてみたいです(現在どんな生活を送っているのか)。
- ・ぜひ参加させていただきたい。
- ・今回のように、現場と乖離しない講座を続けてほしいです